

# 平成28年度 村上市岩船郡音楽部 活動報告

部長 鴻島亜希子

## 1 研究主題

音楽に親しみ、喜んで表現したり鑑賞したりする子を目指した音楽授業

## 2 研究の概要

- 4月 音楽部会① 事業計画の作成（研究テーマ、活動計画、活動費など）  
5月 代表部員会 活動内容の詳細について  
8月 音楽部会② 研修会 音楽の授業におけるポイントについて  
講師 新潟市立小須戸小学校教諭 村山香織 様  
音楽部会③ 指導案検討会  
11月 音楽部会④ 研究授業  
授業者 神納東小学校 教諭 中山佳菜美  
題材名 第5学年「曲想を味わおう」  
指導者 村上市立猿沢小学校校長 安澤たい子 様

## 3 研究の実際

### ○研修会について

村山先生からは、音楽づくりの実践を中心にお話しいただいた。中でも音楽科におけるアクティブ・ラーニングのお話が大変勉強になった。ゴールイメージを子どもたちにももたせること、何がよいのかを価値付けることが大切であり、そうすることで音楽における思考・判断・表現の力が育っていくことがよく分かった。また、部員全員で「村上のお宝」というテーマで音楽づくりの模擬授業を行った。実際に自分たちが体験することで、音楽づくりの楽しさを実感でき、有意義な研修会となった。

### ○研究授業について

授業者は、「キリマンジャロ」の2つの部分（アとイ）の曲想の違いを生かして表現することをねらいとして、授業を行った。

前時までの学習をもとに、3つのグループに分かれ、どのように演奏すれば曲想の違いを生かすことができるか相談しながらグループ練習を行った。

次に、「仮のまとめ」として、グループの演奏を発表し、曲想の違いを生かす演奏の有効な手立てを共有した。共有した手立ては、次の通りである。

- ・アの部分は、はずむ感じなので、スタッカートをはっきり演奏するとよい。そのため、息をとがらせる。タンギングに気をつける。
- ・イの部分は、ゆったり、ゆるやかな感じなので、のぼすことが大切。しっかりとのぼすためには、息つぎですばやくたくさん息をすう。

その後のグループ練習では、上記の2点を意識して熱心に練習を行う姿が見られ、曲想の違いを生かした表現に近づくことができた。

協議会では、グループ練習で活用していた拡大楽譜が大変有効だという意見が出された。スタッカートやのぼす音などに書き込みをすることで、意識して演奏することができた。しかし、のぼす音はどこまでのぼすのかがはっきりするよう、矢印をつけるなど工夫すれば良かったという意見も出された。

安澤先生からは、鑑賞と表現のつながりがあり、題材を通して子どもたちは、曲想の違いを感じて表現していた。タンギングや音をのぼすなどの技能面を指導するには、各学年の教科書を活用するとよい。正しい音楽用語の習得や音楽に関する言葉の蓄積が大切であるのご指導いただいた。

## 4 成果と課題

- 村山先生のご指導から音楽づくりの授業を行う上で、たくさんのヒントをいただいた。すぐにでも実践できる内容であったため、部員からも大変好評だった。
- 研修会や指導案検討、研究授業を通して、研究主題に迫ることができた。
- 指導案検討会や研究授業の協議会を4、5人のグループで行ったことで、たくさんの意見を出すことができ、大変有意義な話し合いとなった。